

# 11月ダイヤ改阻止、広域配転・人活センター粉碎！ 全職場から実力反撃に起つぜ



座して死をまつより起って反撃だ！ 全国からの代表625名は全力決起を誓った。(9月7日・四ツ谷公会堂)

## 日刊 動労千葉

86. 9. 11

No. 2348

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇四七二(二二)七二〇七

### 国鉄法案粉碎 10.12国会大デモも決定



九・七国鉄労働者全国交流集会の勝ちとるべき課題について国労共闘代表・吉野氏(国労・八王子)から、①国鉄労働者が勝つ好機が到来、②動労革マル・真国労解体戦に起て、③動労千葉の第三波決起に応え、今こそ進撃せよ、との方針が鮮明にうちだされ、全国十四地本一十二名の仲間から闘いの報告と決意が明らかになり、いよいよ九一十月の今秋決戦への火ぶたが切っておとされた。

いまこそ怒りの総反撃へ

国労共闘・吉野代表  
が基調提起

動労千葉・中野委員長の『国鉄労働者はいかに闘うべきか』との提起をうけて国労共闘の代表が起ち『いまこそ怒りの総反撃へー国鉄労働者の課題と任務』と題し、闘う方針を鮮明にうちだした。

△危機突破、大胆な決起を！

まず第一に、国労は

十三万となり、一カ月で一萬三千が脱退。鉄労志摩、動労松崎は、「国鉄国会前に国労を解体する」と叫び、国労内にあつては「青友会」が労使共同宣言を結ぼうと蠢動しはじめ、闘う方針を提起しないが故の内部崩壊過程に入っている。国鉄労働者一人ひとりがこれほどまでに階級闘争の荒波をうけたことが今まであつたか。この荒波にさらされて生きざまをかけることが一人ひとりにつきつけられているいま、われわれが闘って突き進むならば必ず多くの労働者が満を持して起ち上る情勢が到来した。

△「七十数名自殺」の無念をはらせ！

第二に、八月二四日の動労全国地本三役会議は国労解体の成果をあげた者を新会社へつれていくと恫喝している。この裏切り者が大手を振ってまかり通ることなど許さない。裏切り集団解体を！ 八九月、熊本で動労組合員が広域配転で疲れたと自殺、熊本の真国労組合員も自殺。「国鉄改革」と称する国鉄労働運動解体の中で、七〇名をこえる労働者が殺された。この無念を晴らすに彼らの攻撃を指をくわえて見ていることはできない。

△闘いは開始された！「第三波」に呼応・進撃！

第三に、われわれは権力・当局・革マルの弾圧の下で分割・民営化阻止の旗を守りぬき、国鉄労働者

働者ー日本労働者階級の魂を守りぬいた動労千葉の仲間は今こそわれわれが起つて固く連帯してすさまじい決起をこの秋に実現し、あらゆる職場で創意と工夫をこらして進撃をとにも開始したい。新幹線博多総合車両所では、すでに一カ月にわたって全組合員が参加したハンガーストに突入している。国労青年部は、全国従断のハンガーストを計画、人活センターでも様々な闘いがおこっている。われわれは、あらゆる職場を武器にして二万一千の営業キロを従横無尽に駆使して全国を国鉄決戦のちまたに化して闘いぬいて共に勝利したいと力強く提起した。

十四地本・二十一名の仲間が報告と決意

つづいて、全国から十四地本・二一名の仲間が登場し、職場からの報告がなされた。

- ある分会では、三役・執行委員全員十一名が人活センター送りとなった。
- 広島地本大会で委員長の「労使共同宣言を結ぶ」との暴言に組合員は怒っている。
- 動労の広域配転者を徹底糾弾の闘いと同時にマル生グループの結成大会流会、人活センター解体の闘いを展開している。
- 人活センターに送りこまれ怒りを感じると同時に一番に送りこまれ誇りを感じている。
- 国労組合員八百名中、一六〇名、実に五人に一人が人活センターに送りこまれている。

- 県評で動労に対し弾劾の声が大きくあがっている。
- モデルケースの高崎では動労革マルは国労をゼロにすると叫びながら現場で局のスパイとなり、特設教育で国労職場へ送りこまれ、労働課がその防衛隊となっている。
- 点呼で「ハイ」と言わない、と停職三カ月という人権も無視したやり方にやめちゃおう、一歩下がれば」との意識から自ら闘おうに変ってきた。

- 運転職場に動労の広域配転で組合員が人活センターにやられ、配転者は満足な教育もなく本人も当局も不安でいっぱい。真国労はゴマ

(裏表につづく)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！